



令和 4（2022）年度
自己点検・自己評価報告書

学校法人 河合塾学園
トライデント外国語・ホテル・ブライダル専門学校

2023年7月25日作成

1. 学校の教育目標

本校の教育理念は、『汝自らを求めよ』<自らを究め、この世に生まれて来た自らの使命を見いだして、それをあくまで追求する喜びが、すべての人間に与えられていることを意味する>である。これは河合塾グループの共通理念でもある。この教育理念を『Seek for Thyself』として学章に記して明確にしている。職業教育のいっそうの追求に向けた近年の教育改革の取り組みの中で、専門学校グループとして教育理念をより具体的な言葉にする必要があると考え、平成 25 年度において改めて検討のうえ宣言することにした。その内容は「トライデントは、みなさん一人ひとりを、志望の職業に導くのはもとより、将来、業界を牽引できる人材へと育て上げます。」である。これを、トライデント全校を貫く共通的な教育理念とした。

各学科の教育目標は次の通りである。

<語学系：「英米語学科」「国際教養学科」、「グローバル学科」の語学系専攻>

語学系学科である「英米語学科」「国際教養学科」、および「グローバル学科」の語学系専攻は、実際に外国人とコミュニケーションをはかるために必要となる「実用的な語学力」および就職に役立つ「資格取得」「職業体験」を通じて国際感覚豊かで国際社会に貢献できるグローバルな人材の育成を目標としている。

<サービス系：「国際エアライン学科」「国際ホテル学科」、「グローバル学科」のサービス系専攻>

サービス系学科である「国際エアライン学科」「国際ホテル学科」、および「グローバル学科」のサービス系専攻は、“ビジネス能力・対人サービス能力およびホスピタリティマインド”に優れた人材の育成を目標に掲げ、専門技術の修得のみならず、業界で必要と思われる能力の開発を視野に入れた実践的な実務教育の理論と実践とを融合させている。

また、グローバル学科では、1 年次終了後に 1 年間海外留学し、毎日の生活の中で語学鍛錬に加え、その地域の文化に直に触れることにより、より国際的理解を深めることも目標としている。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

コロナ禍で制限されていたさまざまな活動を再開し、課題となっているカリキュラム再構築を進めていく。

<2022 年度>

- ・海外現地留学プログラムの全面的な再開
- ・学園祭、サークル活動の実施
- ・職業体験、インターンシップ参加、ボランティア活動の機会創出
- ・学生自ら探求し、深堀し、人前で発表する機会増加につながる科目新設

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
項目2：学校における職業教育の特色はあるか	④	3	2	1
項目3：社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
項目4：学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
項目5：各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

- ・評価項目5について

知識や技能の習得も大事だが、状況に応じた対応ができる柔軟性やその業界で働く強い思いを持ってもらうために、業界の方々に講演をしていただいたり、職場体験させたりしている。

② 今後の改善方策

- ・さまざまな体験をさせることができるように企業と連携をしていく。

③ 特記事項

- ・トライデントの教育理念を周知徹底すべく、毎年「トライデントのかなえる力」を作成し、配布している。
- ・学生には、新入生対象の業界研究の企業講演や卒業生講演を通じて、学校で学ぶべき目的等を再確認できるように、また保護者に対しては、保護者会、保護者通信を利用して周知している。

(2) 学校運営

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
項目2：運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1

項目 3： 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
項目 4： 人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
項目 5： 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
項目 6： 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
項目 7： 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
項目 8： 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

- ・評価項目 8 について

紙運用であったものでデジタル化できるものはほぼデジタル化対応を完了した。今後は、ツールなどを利用することによって効率化できる業務があれば、運用方法・適用ルールなどを考えて、効率化を進めていく。

② 今後の改善方策

デジタルツールの活用による手作業の削減を検討中。

③ 特記事項

事業計画については「長期ビジョン」「中期経営計画」「年次計画」に基づき、校舎・各学科の年度事業計画を決定し運営実行している。その策定方法については、学校長を中心に、各チームチーフ・学科長の計画や意見を聞いて調整のうえ成案としている。

運営状況のチェック確認については、項目によって月次や 6 ヶ月半期のタームごとに進捗およびスケジュールの確認を行い計画に沿った学校運営に努めている。

(3) 教育活動

評 価 項 目	評 価			
	④	3	2	1
項目 1： 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
項目 2： 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
項目 3： 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	③	2	1

項目 4： キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
項目 5： 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
項目 6： 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	③	2	1
項目 7： 授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
項目 8： 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	④	3	2	1
項目 9： 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
項目 10： 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	③	2	1
項目 11： 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
項目 12： 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
項目 13： 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	④	3	2	1
項目 14： 職員の能力開発のための研修等が行われているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

- ・評価項目 6 について
コロナ禍でも受け入れ可能な企業へのインターンシップ、ボランティア活動など、経験を積める機会創出に努めた。新たな産学連携についての検討も開始。
- ・評価項目 10 について
学生の資格取得状況や成績分布について情報共有し、新たな取り組みを構築。

② 今後の改善方策

- ・常勤講師・非常勤講師ともに対象として、全学科共通の内容での研修を年 2 回以上、学校主体で企画運営しており、学校として取組みが動いていると評価できる。
- ・専門科目に関しての研修は、自主的な受講以外にも外部研修の紹介をし、受講促進を図っている。

③ 特記事項

- ・各学科カリキュラムマップを作成し、講師・学生全員に配布している。修業年限に対応した到達目標を設置し、各業界や教育課程編成委員会委員からの意見や要望を組み込んで、カリキュラムの見直しを図り、到達目標達成に向けた科目設置や単位数の変更などを極力次年度で反映させている。

(4) 学修成果

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
項目2：資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
項目3：退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
項目4：卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
項目5：卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されている	4	③	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

・項目2について

資格取得は就職活動時に自分の能力を客観的に判断してもらえる指標となることから、学生に資格取得を推奨しており、進級・卒業条件に組み込むことにより、資格取得への動機付けに取り組んでいるが、検定料金の高額化もあって受験者数が減少。

・項目3について

今年度は例年に比べ、特に海外留学中または帰国後の退学者が多かった。留学中に新しい目標ができて退学する者や、人間関係に悩んでしまった結果退学した者がいた。

・項目4・5について

業界で頑張っている卒業生を講演に招いたり、企業に採用いただいた卒業生のリストをもとに最近の様子を伺ったり、担任とのやりとりなどで把握したりして情報収集に努めている。

② 今後の改善方策

- ・「資格取得率」を学習成果の指標として位置づけ、学生への積極的取得を促していく。
- ・卒業生の動向（活躍・離職）は、就職先の企業との連携を強めていくとともに、個別に担任から情報を得るなど、卒業生の活躍等を把握していき、卒業生講演の依頼などを行っていく。

③ 特記事項

- ・教員による担任制度で、年間を通して面談し、退学予備軍の早期発見、卒業後の進路相談とケアを行っている。2022年度退学率 11.3%（2021年度退学率 6.6%）
- ・資格取得状況（英語系学科 当校 KPI を基準に算出）
 - 1年次 英検準2級以上取得率 22.2% TOEIC470点以上取得率 43.1%
 - 2年次 英検 2級以上取得率 10.8% TOEIC550点以上取得率 24.1%
- ・就職内定率 97.1%

(5) 学生支援

評価項目	評価			
項目1：進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
項目2：学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
項目3：学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
項目4：学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
項目5：課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
項目6：学生の生活環境への支援は行われているか	4	③	2	1
項目7：保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
項目8：卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
項目9：社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
項目10：高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

- ・評価項目4について
学生の健康管理については、専門スタッフを配置する体制はとれていない。
- ・評価項目8について
HPに卒業生専用ページを作成し、各種証明書の申込み、卒業後の就職相談等を行っているが、積極的な告知はできていない。

② 今後の改善方策

- ・卒業生とのコネクションを保つ方法を要検討。

③ 特記事項

- ・専門学校の使命である就職を念頭においたカリキュラムである。卒業後の進路決定にむけて、キャリアセンター担当者、担任、保護者と連携した体制を整備している。
- ・修学支援制度を申請し、認定校となった。
- ・学生に対する経済的な支援体制は、入学前より学費の相談会の実施や各種奨学金の案内とヨシック

ス記念財団奨学金の給付型の奨学金、修学支援の案内を実施している。また学内の奨学金制度も特待生選抜制度、トライデント奨学生制度、トライデント同窓会奨学生制度、トライデント海外留学奨学生(スカラシップ留学)制度、ホテル委託奨学生制度、河合塾グループ在籍者対象減免制度、家族入学者減免制度などを設けている。

- ・課外活動は、2022年度より再開。
- ・担任制度によって、年間を通して必要なタイミングで面談をしており、卒業後の進路の希望を細かく聴き取ることができ、ケアが可能になってきている。
- ・卒業生に対しては、就職サポートをおこなう「卒業生就業支援サービス」を、無料で行っているが、周知・啓蒙は十分にできていない。
- ・高校からの依頼で進路指導や面接練習などの講師派遣をしている。

(6) 教育環境

評価項目	評価			
	4	③	2	1
項目1：施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4	③	2	1
項目2：学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4	③	2	1
項目3：防災に対する体制は整備されているか	4	③	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

- ・評価項目2について
インターンシップについては受入れ企業の開拓を行っている。
実地でのインターンシップが再開でき、海外研修についても中国・タイ除く地域で実施できた。

② 今後の改善方策

- ・インターンシップの選択肢を広げて参加率を上げる。
- ・すべての海外研修を実施する。費用面・安全面を考慮し、研修先の見直しを行う。

③ 特記事項

- ・担任が利用できるタブレットを配付。
- ・学習環境向上のため、Wi-fi 接続環境を増強。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
項目2：学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
項目3：学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

教育成果、就職実績の情報発信を教務と連携して強化することが課題。

② 今後の改善方策

資格取得、インターンシップ、特色ある授業内容などを、HP、DM や SNS を通じてタイムリーに発信していく。

③ 特記事項

留学生については、出入国管理および難民認定法に定められる在留資格の活動目的範囲との整合性、ならびに法務省令の所定基準に則した経費支弁能力も付加的に審査・考慮し、入学判定材料としている。

(8) 財務

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目1：中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2	1
項目2：予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
項目3：財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
項目4：財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

コロナ禍によってサービス系職業が打撃を受け、入学者数が激減。入学者数を確保するため、より魅力を感じられる募集施策と、退学者の抑制が課題。

② 今後の改善方策

- ・ 専門学校を選択したくなる広報の実施。
- ・ 学生満足度向上のためのカリキュラム充実。
- ・ 業務効率化などによる一般管理費の抑制。

③ 特記事項

・ 予算について

学校運営にかかわる予算については、トライデント各校・各学科において年度予算を編成し、学校法人河合塾学園理事会の承認を経て予算が決定されている。予算執行については、河合塾グループの経理規程・予算管理規程に従い、承認された予算の各費目枠内で、執行担当者が所属長および学校長の承認を受けて執行する。予算と実績の差異は定期的にチェックし、予算実績管理の精度向上に努めている。

・ 監査・財務情報公開について

河合塾グループの部門として、監査法人による会計監査を受けて、良好との判定を得ている。さらに河合塾グループ監査室の内部監査も定期的に受け、問題がない旨の監査結果を得ている。愛知県の経常費用補助に関する指導検査にあたっては、健全かつ良好との講評を得ている。

私立学校法に基づく財務情報公開については、河合塾グループの一員として、法人事業報告と財務状況をまとめ、各校ホームページ上に公開している。

(9) 法令等の順守

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目 1：法令、専修学校設置基準等の順守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
項目 2：個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
項目 3：自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
項目 4：自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

評価： 適切… 4、ほぼ適切… 3、やや不適切… 2、不適切… 1

① 課題

・ 評価項目 1

- ・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営について、日々、注意を怠ることなく実行することを心掛ける。
- ・ 現在は自己点検にとどまっている。適正な学校運営を図るため、さらに第三者評価の導入の必要性を感じている。

② 今後の改善方策

既成の評価機関との連携か、評価のための本校独自の第三者団体の創立か、数年後の実施を視野に入れ、慎重に検討を進める。

③ 特記事項

・法令等の順守について

河合塾グループ法務部の監修のもと、専修学校設置基準など、該当する各法令に従い、種々の申請・届け出・報告などの諸手続きを遅延なく確実に実施している。

・個人情報保護について

個人情報保護については、河合塾グループ情報セキュリティ事務局が設定している「個人情報保護方針」をはじめ、情報管理基本規定や各種ガイドラインなどの指示に基づき、業務フローにしたがって業務遂行にあたっている。

学園として取得していたプライバシーマークは、2021年度の更新年度において継続を中止したが、これまで同様、しっかりと方針に沿って業務遂行をしていく。

・学校自己点検・評価について

学校自己点検・評価は、学校運営において日常的に励行できていない事項、チェック確認が行き届かない事項について、確認・協議、検討・改善などを行う最適の機会であると位置付けている。

また、毎年実施される学校関係者評価委員会による会議における指摘事項については、検討・改善を行っている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評価			
	4	③	2	1
項目1：学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
項目2：学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④	3	2	1
項目3：地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	③	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

・評価項目1について

高校生の学校見学の受入れや、海外からの研修の受入れをおこなっている。

② 今後の改善方策

- ・近隣の商店街や笹島小学校などの語学関連のボランティア活動を検討する。

③ 特記事項

3年連続で名古屋ウィメンズマラソンのボランティア活動に参加。普段の学校生活では見られない学生の一面が発見できるなど、ボランティア活動の意義も感じている。今後も学生のボランティア活動を奨励・支援していきたい。

(1 1) 国際交流

評価項目	評価			
	④	3	2	1
項目 1：留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	④	3	2	1
項目 2：留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
項目 3：留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
項目 4：学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1

評価： 適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1

① 課題

- ・評価項目 1 について
優秀な留学生確保のための、国内の日本語学校とのパイプ強化。

② 今後の改善方策

- ・就職に必要な日本語能力検定 N1 取得を目標に2年間カリキュラムを構築する。
- ・留学生の就職に有利になるように、専門学校の履修内容に関連するアルバイト・インターンシップを経験させるように誘導・指導をする。

③ 特記事項

- ・全国語学ビジネス観光教育協会主催の第 1 回外国人留学生日本語弁論大会に当校から出場した学生が優秀賞を受賞。
- ・留学生募集時に、日本語能力検定 N2 取得者限定という原則を堅持することは非漢字圏からの留学生が増加する中で、厳しい状況にある。
- ・留学生の就職に関しては、就職先の職務内容が専門学校における学修内容との関連性が必要となり、これが、留学生にとって就職が厳しくなる要因である。
在学中に日本語能力検定 N1 取得できるように指導するとともに、就職時に有利になるよう、特定技能試験を受けるよう指導を行っている。
- ・2022 年度在籍者は 6 名。出身国はネパール、ベトナム、スリランカ、台湾、フィリピン。